Oasis meets Books

オアシス・ミーツ・ブックス

本のあるオアシス　本のある人生

2025年7月　vol.30

先日、「1歳の孫におすすめの絵本はありますか？」と尋ねられたとき、私は迷わず『はらぺこあおむし』をご紹介しました。
この絵本は、カラフルで目を引くデザインに加えて、文字が読めなくても楽しめる工夫がいっぱい。あおむしの成長を追いながら、自然と数字の概念や曜日なども学べる、世界中で愛されているベストセラーです。私の娘も幼かったころ、飽きることなく何度もページをめくって楽しんでいました。
今、オアシスには3ヶ所の書庫があります。最初は興味が持てない本や苦手なジャンルもあるかもしれません。
でも、ちょっと手に取ってみると、新しい発見や思いがけない感動が待っていることも。
この夏は、娘と一緒にどんな本を楽しもうか…そんなことを考えるだけで、今からワクワクしています。（教育委員会 委員長：前田 吉紀）

社会人として大切なことはみんなディズニーランドで教わった ／ 香取 貴信

デイサービス オアシス長瀬 ／ 介護士 吉川 彩子

私が20代の頃、勤務先の人事部長に勧められ、手にした本をご紹介します。
自己啓発本には全く興味がなく、どちらかというと苦手なジャンルでした。気が進まないまま読み始めたのですが、あっという間に完読しました。

「付き合っている彼女に、大好きなミッキーマウスと一緒に写真を撮ってあげたい」という単純な動機から、筆者がディズニーランドでアルバイトをする所から始まります。この頃の彼はどうしようもなくいい加減で、遅刻はする、無断欠勤はするといった最低の勤務態度です。
ですが、そんな彼を周りのスタッフ達は時に厳しく、時に優しく指導します。
「こうしたら喜んでもらえるんだ」「もっと喜んでもらう為にはどうしたらいいのか」「次も頑張ろう」来園されたお客様に感謝の言葉を掛けてもらった時のひとつの気付きが、二倍にも三倍にもなり仕事がどんどん面白くなっていきます。
ディズニーランドの徹底したおもてなしの精神や、チームワークを大切にする姿勢がユーモアあふれるエピソードで綴られており、社会人としての基本的な姿勢を楽しく学ぶことが出来ます。
私は悩んだ時はこの本に書かれたことを思い出し、反省したり振り返ったりしています。「サービスは掛け算なんだ」自信を持ってお勧めできる素晴らしい一冊です。

・次回 ⇒ デイサービス オアシス長瀬 ／ 介護士 山﨑 加奈美

新宿鮫 ／ 大沢 在昌

営業部 人材開発 ／ 曽我部 泰子

第1巻『新宿鮫』から第12巻『黒石』まで・・・もう、とにかく面白い！　本作の主人公は、新宿署の刑事・鮫島。彼が複雑で難解な事件の核心に迫っていく姿から、「新宿鮫」という異名がつけられました。

そのスリリングで張り詰めた展開にページをめくる手が止まらず、気づけば夜更かしして夢中に。一冊読み終えるたびに得られる満足感は格別で、次の物語を手に取らずにはいられません。
シリーズの初版は1990年。当時の車載電話からスマートフォンへと時代が移り変わる様子も作中に巧みに描かれており、時代の空気までも味わえるのが魅力のひとつです。
刑事としての使命、捜査の手法、組織の動きや裏社会の実態、リアルで奥行きのあるディテールが物語に深みを与え、さらに、登場人物たちの葛藤や成長が人間味を引き立てています。
次巻を心待ちにする読者が多いのも納得のシリーズ。まだ読んだことがない方も、ぜひ一度、ページをめくってみてください。

・次回 ⇒ 特養オアシス寿安 地域連携課 ／ 生活相談員 松川 裕和

アオアシ ／ 小林 有吾

老健 オアシス リハビリ ／ 理学療法士 藤井 輝

1番右：藤井さん

今回ご紹介したいのは、サッカー漫画『アオアシ』です。
物語の主人公は、弱小サッカー部に所属するサッカー少年。連携や戦術理解には課題があるものの、得点力や個人技には光るものがありました。そんな彼が中学最後の試合で、プロサッカーチームの監督の目に留まり、高校世代を対象としたユースチームのセレクションに挑戦することになります。

セレクションでは、監督が主人公の中に「個人技とは異なる新たな才能」を見出し、見事合格。そこから彼は、戦術の理解やチームの中での自分の役割に葛藤しながらも、何度も挫折と再起を繰り返し、やがてチームの中心選手へと成長していきます。
この作品がユニークなのは、「才能」よりも「考える力」に重きを置いている点です。いわゆる普通の高校生活とは異なる、ひたむきで熱い青春が描かれており、サッカー好きはもちろん、胸を打つ物語を求めているすべての人におすすめしたい一作です。

・次回 ⇒ 老健 オアシス リハビリ ／ 柔道整復師 金生 健二

薬屋のひとりごと ／ 日向 夏

デイケア オアシス寿安 ／ 介護士 大倉 慶子

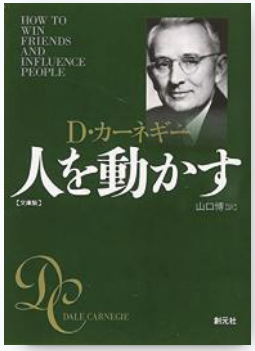
今回ご紹介したいのは、大人気作品『薬屋のひとりごと』です。
もともとは小説として誕生し、コミック化、そしてアニメ化と、メディアを越えて多くのファンを魅了し続けている物語で、現在はアニメ第2期も放送されるほどの人気ぶりです。

舞台は、古代中国風の架空の帝国。主人公は薬師としての知識を持つ少女。ある日、人さらいにあい、後宮で下女として働くことに。そこで彼女は、その卓越した薬学の知識を駆使し、宮中で起こる数々の不可解な事件を次々と解決していきます。
難事件の謎が解き明かされるたびに感じる爽快感とワクワク感。そして、物語にはほのかな恋愛模様も織り交ぜられており、ミステリーとしての面白さだけでなく、心に響くドラマとしても楽しめます。
幅広い世代の読者におすすめしたい、知的で魅力あふれる一冊。ぜひ手に取ってみてください。

・次回 ⇒ デイケア オアシス寿安 ／ 理学療法士 根岸 芽衣

人を動かす ／ デール・カーネギー

老健 オアシス 入所介護 ／ 介護士〈技能実習〉メー・ティ・ホア



笑顔は、人と人との心を結びつける、最もシンプルでありながら最も力強いコミュニケーションのかたちです。ことばがなくても、たったひとつの笑顔で相手の心を温め、安心感を届けることができます。

そして、もしあなたが相手を思いやる心を持っていれば、そのやさしさはきっと伝わり、やがて周囲にも連鎖していくことでしょう。思いやりの循環は、小さくとも確かな幸せの波紋となって広がっていくのです。

そんな人との関わりや心の在り方を深く考えさせてくれる一冊が、『人を動かす』です。この本は、長きにわたって多くの読者に愛され続けてきた不朽の名著。そこに書かれている原則やことばの数々は、どれも奥深く、実生活のあらゆる場面に通じる学びに満ちています。

もし今すぐに時間が取れない方でも、まずは要約やエッセンスを少しだけでも読んでみてください。きっと、「これは自分のための一冊かもしれない」と感じる瞬間に出会えるはずです。

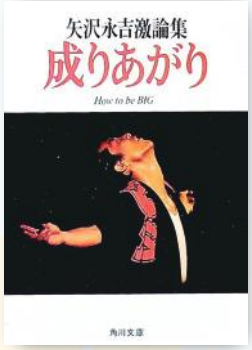
この本に散りばめられたヒントは、人の心を動かす術であると同時に、自分自身の心をも豊かにしてくれるもの。人生のさまざまな局面において、ひとつの指針や希望の光になるかもしれません。

どうぞ、この小さな扉を開き、その奥に広がる世界をのぞいてみてください。

・次回 ⇒ 老健 オアシス 入所介護 ／ 介護士〈技能実習〉レー・ティ・ハン

矢沢永吉激論集 成りあがり ／ 矢沢 永吉

老健 オアシス 衛生 ／ 宇田 晴美



矢沢ファンにとっての、かけがえのない一冊。

ファン歴40年以上の私にとって、矢沢永吉は単なるアーティストではありません。人生の原動力、生き甲斐そのものです。

毎年欠かさず大阪公演に足を運び、会場に足を踏み入れると、すでに胸が高鳴ります。

開演前には、ファンたちの心がひとつになる「永ちゃんコール」。その一体感だけで、すでにライブは始まっているのです。

ステージが始まれば、声が枯れるほど叫んで応援し、終演後は仲間たちと乾杯。そして翌日はお約束の二日酔い・・・

そんな毎年のルーティンすら、私にとっては愛おしい幸せの証。

家飲みでは、ライブで手に入れたグッズを棚から取り出し、ひとつひとつに想いを馳せながら晩酌を楽しむのが至福の時間。

「あの年は…この年は…」と、心のアルバムをめくるように。

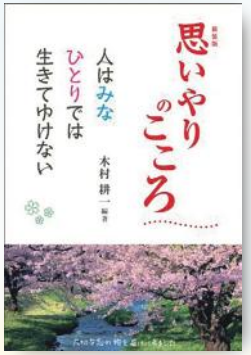
そういえば、息子が中学生の頃から「男の子が生まれたら、“永吉”って名前をつけてな」とお願いしていました。でも授かったのは、とても可愛い女の子でした。

これからも、矢沢とともに、ファンの仲間とともに、人生を謳歌し続けます！

・次回 ⇒ 老健 オアシス 衛生 ／ 審　秀子

思いやりのこころ　人はみなひとりでは生きてゆけない ／ 木村 耕一

介護支援センター オアシス 地下鉄平野駅前 ／ ケアマネジャー 岸下 昌和



この書籍は、思いやりの心の大切さについて描かれています。

人は日々、自身の希望や目標を持って生活しています。その中には、たくさんの人が関わっていますが、自身の欲求や我が強いためか、物事の達成にばかり目がいき、人の支援や関わりを忘れがちになります。自分中心に物事を考えて行動してしまうのは分からなくはないですが、一人で何でも出来ていると感じても、実際は一人で出来る範囲は限られています。その際、周りに対する配慮を忘れると、協力は得られなくなり、孤立することもあるでしょう。

その結果、自身の言葉や行いにより、積み上げてきたものは音を立てて崩れ落ちてしまいます。

①感謝の言葉をすぐに相手に伝える。自分の身に置き換えて発言する

②自身の正当性の主張はひとまず心にしまって、相手の話に耳を傾ける

③自身にとっての優先事項は相手の気持ちとは合致しない

これらが重要であることに気づかせてくれる一冊です。

・次回 ⇒ 営業部 営業推進室 ／ 室長 坂本 順一

オアシス文庫 recommend

蔵書ご案内

老いも病も受け入れよう

瀬戸内 寂聴

瀬戸内寂聴さん・・・徳島に生まれ、東京女子大学を卒業。天台宗の尼僧であり、心を打つ数々の作品を生み出してきた小説家としても知られています。

本書は、そんな寂聴さんが94歳のときに綴った、初の闘病記です。自らの老いを切実に感じ、病と向き合ったとき、心に去来した想いとは・・・。

死の淵から生還し、生きる力と長寿の秘訣を、静かに、そして力強く伝えてくれます。闘病中の心の持ちよう、そして病中に工夫された食生活など、ご自身の体験を通して語られる言葉は、どこか温かく、背中をそっと押してくれるようです。

老いや病とどう向き合うべきかを、優しく、そしてユーモアを交えた語り口で綴られた文章は、年齢を問わず、多くの方に寄り添ってくれるはず。

気がつけば、あっという間に読み終えてしまう・・・そんな不思議な力のある一冊です。

人生に迷ったとき、静かに灯をともしてくれる本。ぜひ手に取ってみてください。（教育委員会：上妻　弓里子）

老健・特養寿安・支援長瀬の「オアシス文庫」から貸し出しできます▶

編集後記

世界で5番目に小さく、世界で一番古い共和国「サンマリノ」

大阪・関西万博コモンズCに、ひっそりと世界最古級の写本が展示されています。

この書物には、サンマリノ建国の物語・・・　紀元前3～4世紀のサンマリノ共和国のはじまりが記されていて、ユネスコ世界記憶遺産候補にもなっているそうです。

1,000年以上前、遠く離れた場所で、間違いなく「誰か」が書いた本。

今、目の前にあることが不思議で仕方ありません。

『脈々と・・・●●』そんな言葉が胸に浮かびます。

皆さま、万博へは行かれましたでしょうか？　パビリオンの大小はありますが、どこも国をあげて、自国の紹介をされています。

小さな「世界」を是非、巡ってみてください。

oasis

教育委員会

（教育委員会：中島美和子）